

事務事業評価における総括

部 局 名	市立病院部	記入責任者	岩澤 健治
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>病院総務課における政策的事業である「市立病院の医療機器に関する事務」については、経営状況を鑑み翌年度に購入するための調整は行えましたが、高額医療機器についての購入計画の策定には至らなかったためC評価としており、「市立病院の建設改良に関する事務」については、耐用年数を超過して使用していた機械設備の更新のほか、入札不調に伴い本館改修工事の着工が遅れていましたが、令和3年3月に契約締結することができたためC評価としています。</p> <p>医事課における政策的事業である「市民健康講座の開催」については、新型コロナウイルス感染症の影響により実施することができなかったことから実績なしでしたが、「各種医療相談」については、患者数が減少しながらも、相談件数が目標値を大きく上回ったためS評価としております。</p> <p>施策指標については、「経常収支比率」は目標値を上回る結果となりましたが、「医業収支比率」及び「病床利用率」は目標値を下回る結果となりました。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、患者数が減少し、医業収益は減収となりました。国からの空床補償・病床確保に対する補助金約15億円を医業外収益として計上したため「経常収支比率」は目標値を達成しましたが、医業収益が減収となったことにより「医業収支比率」は前年度と比較しても低下している状況です。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた今後の方向性について】</p> <p>医療機器の購入に関しては、医療機器等整備委員会を随時開催し、選定方法のあり方の検討を行いながら計画的な購入に努めてまいります。また、購入計画の策定ができなかったことから、引き続き関係部署とともに、購入計画の策定を進めてまいります。</p> <p>地域における基幹病院として良質な医療を継続的に提供していくため、効率的な経営が求められており、「茅ヶ崎市立病院リバイバル・ロードマップ」に掲げた、目標とする重要業績評価指標（KPI）の達成に向け、引き続き収支改善に向けた取り組みを進めるとともに、新型コロナウイルス感染症の動向に注視しながら経常収支比率及び医業収支比率の改善を目指します。また、市立病院の経営形態の見直しについては、「茅ヶ崎市立病院在り方検討委員会」の答申結果を踏まえて進めていきます。</p>			